



注意事項と制約事項

- [ガイドライン \(1 ページ\)](#)
- [制限事項 \(2 ページ\)](#)

ガイドライン

HyperFlex ストレッチ クラスタを作成する時に以下のガイドラインを考慮してください。

- HyperFlex ストレッチ クラスタ機能を使用するには、HXDP Enterprise Edition のライセンスが必要です。
- VM ロードバランシングやVM 移行などのフル機能の HyperFlex ストレッチ クラスタ機能には、vSphere Enterprise Plus ライセンスが必要です。
- DRS が [Enabled]であることを確認します。
- サポートされているストレッチ クラスタ スケール：
 - 各サイトに最低2つのノードが必要です。両方のサイトにわたる最小の全体的なクラスタサイズは4です。
 - 小型フォーム ファクタ (SFF)。両方のサイトにわたるクラスタの最大サイズは64です。コンバージド ノードの最大数は、サイトあたり16です。1サイトあたりのノードの最大制限は32を超えてはなりません。コンバージドノードに対するコンピューティングの比率は2:1にすることができます。たとえば、サイトごとに、11のコンバージドと21のコンピューティング ノードを設定できます。
 - 大型フォーム ファクタ (LFF)。最大クラスタサイズは48です。コンバージド ノードの最大数は、サイトごとの8です。1サイトあたりのノードの最大制限は24を超えてはなりません。コンバージド ノードに対するコンピューティングの比率は2:1にすることができます。たとえば、サイトごと8のコンバージドおよび16のコンピューティング ノードを設定できます。
- 各サイトに冗長ファブリック インターコネクト設定が必要です。

- 両方のサイト間で対称クラスタ設定が必要です。ノードの数と HX ノードのモデルは、両方のサイトで同じである必要があります。
- VM が作成される前に VMware HA と DRS が有効になっている場合のみ、VM はサイトアフィニティ内に正しく配置されます。それ以外の場合、適切なアフィニティのための VM の正しい配置は保証されません。
- HyperFlex ネイティブレプリケーションは、ストレッチクラスタ間、およびストレッチクラスタと標準クラスタ間でサポートされています。
- それぞれの関係を持つ、サイトごとに2つのデータストアをもつことがベストプラクティスです。
- **ゲストトラフィック**：Cisco VIC の特性は、同じ物理ポートから複数の vNICs から切り離されているため、同じホスト上で実行されているインターフェイスまたはサービスに L2 で通信するために、vswitch-hx-vm-network 上でゲスト VM トラフィックを設定することはできません。a) 別の VLAN を使用し L3 ルーティングを実行するか、b) 管理インターフェイスへのアクセスが必要なゲスト VM が vswitch-hx-inband-mgmt vSwitch に配置されていることを推奨します。一般に、vm-network vSwitch を除き、ゲスト VM を HyperFlex で設定された vSwitches のいずれにも配置しないでください。使用例としては、いずれかのノードで vCenter を実行する必要があり、実行している ESXi ホストを管理するための接続が必要な場合があります。この場合は、上記の推奨事項のいずれかを使用して、接続が中断されないようにします。

制限事項

HyperFlex ストレッチクラスタを作成する際には、以下の制限事項を考慮してください。

- 自己暗号化ドライブ (SED) はサポートされていません。ただし、VM ベースのサードパーティ製ソフトウェア暗号化がサポートされています。
- オーバーレイネットワークおよび L3 プロトコルはサポートされていません。L2 隣接関係は、データと管理ネットワークに必要です。
- ストレッチクラスタは Hyper-V プラットフォームでサポートされていません。
- オンラインローリングアップグレードは HX データプラットフォームでのみサポートされています。Cisco UCS Manager および VMware ESXi のアップグレードは、一度にノードごとに手動で行うか、オフライン状態のときに実行する必要があります。
- スタンドアロンクラスタからストレッチクラスタ構成へのアップグレードはサポートされていません。
- ストレッチクラスタは M5 または M6 ノードでのみでサポートされます。M4/M5、M4/M6、M5/M6 は、拡張によって到達した場合にサポートされます。
- 共有ウィットネス VM は、ストレッチクラスタ展開ではサポートされていません。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。